

序

内部障害患者数は、不適切な生活習慣による生活習慣病や高齢者の増加を背景に近年増加しています。これには糖尿病はその予備軍を含め、40歳以上の国民の4人に1人が疑われるといった事実や肺炎は日本人の死因の第3位になっていることなど多くの例があげられます。また、内部障害を有しているのに診断がなされていない慢性閉塞性肺疾患や無症候性心筋虚血などの潜在的患者層も指摘されているなかで、発症予防や再発予防の重要性が増しています。このように、内部障害理学療法は社会にさらなる貢献をなすべき時代に入っているといってもよいでしょう。

内部障害理学療法は内部障害をもたらし各種疾病のリスクや合併症を管理しながら、理学療法を進める急性期のみならず、回復期リハビリテーションから在宅に至るまで、これまで以上に重要な専門分野になっています。臨床実習においても、学生は内部障害を経験することはまれではなくなり、将来、内部障害を専門としたい者でなくても基本的な知識と技術を備えておくことが不可欠な時代です。

本書では、内部障害の柱である心血管疾患、呼吸器疾患・呼吸障害、代謝疾患に加えて、近年重要度が増している腎疾患、がんも含めた内部障害を扱います。各疾患を「症状・障害の理解」と「理学療法の理論と実際」の2項目から、理学療法教育ガイドラインおよび理学療法診療ガイドラインに準拠しながら、各領域の専門家に丁寧に解説いただきました。学生は、内部障害は外見からの患者像を想像しづらく、イメージが行いにくいと海外の教育機関で指摘されています。これは日本の皆さんにもあてはまることだといえるでしょう。したがって、本書は学生がイメージしやすいよう多数の図表を掲載し、「目で見てわかる」かつ「実践的な」理解が進めやすい構成になっています。加えて、これまでの課程で学んだ基礎医学などへの振り返り学習や国家試験に頻出しているキーワードを明示し、学生の皆さんが意識して勉強しやすいよう配慮しています。

内部障害理学療法学を勉強する学生の皆さんに、その面白さと高い介入効果を伝えることを通じて、本書が内部障害を有す対象者に貢献できれば編者としてこのうえない喜びです。

2016年10月

松尾善美